

友さんの スケッチ

139

文イラスト 長友啓典

根っこにある 教育の問題では



「このころ新聞、雑誌、テレビの各マスコミでは、大阪の高校生が「自殺」したことでヒステリックな報道合戦が繰り広げられている。市長までが出て来て入学試験を中止する騒ぎである。

「体罰」について少々思うことがある。ボクは高校時代ラグビー部（大阪府立天王寺高校）に籍を置いていた。体育会系のラグビー部となれば、「体罰」は当たり前の時代である。幸か不幸かボクは体罰を受けたことはない。友人、知人、先輩、後輩からも

そのような仕打ちを受けた話は聞いたことがない。ラグビー部を途中で辞める人もいたが、体罰的なことも全くなかった。それでも、全国大会にも国体にも出場する栄に浴したほどのチームに仕上がっていた。もちろん周りから見れば体罰かと思われる「特訓」はあったが、本人たちは納得しなくてよかった。顔が腫れようが、傷がつこうが本人は勲章と想っていたほどである。家に帰っても、家族は何も言わなかった。

こんな話がある。府立北野

高校（市長もこのラグビー部）との定期戦が今でも継承されている。定期戦には野本杯という盾が勝者に与えられた。北野高校の野本選手が不幸にもタックルの当たりどころが悪く、病院に搬送後亡くなられた。

亡くなられたご両親の話にボクは感動した。「息子の死を無駄にしないで下さい」、「この定期戦を止めないで続けて下さい」、「誰を責めるのではなく、息子の運命なんです」。数多くはお話にならなかったが、すごいご両親だなご子供心に野本君のために頑張ろうと思った。スポーツの奥深さを知った。

現在の多くの人たち（ボクを含めて）の狼狽ぶりはどうしたことが、日本中、大騒ぎだ。「先生を訴える」、「学校を訴える」、「教育委員会を訴える」、「市を訴える」と大変だ。野本君のご両親を見習えとは言えないが、「部を廃部」にしたり、「入学試験を中止」にしたりの付け焼き刃では解決しないのではと思ってしまう。

根っこにある教育の問題ではないだろうか。親と子、先生と子のコミュニケーションがますます欠落している。「見える、聞かざる、言わぬ」では教育は出来ない。偉そうなこと言っているが、いざ「口」のごとくになるとからきし歯ぎれが悪い。いやー参った。この問題は難しい。兎にも角にも、亡くなられた彼のご冥福を祈ります。

ながとも・けいすけ 39年(昭14)大阪生まれ。「まあ、ええやないか」や「ちやうどちやうど」の「なんとかなるわ」を信条にするイラストレーター。デザイン会社代表

伏見高校

和鉄工社長

しゅんいち 駿一氏 (70)



自由な校風の中で過ごした仲間と（女子学生）のとなり3人目が本（長）上は当時（の親）。